

## 令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立新宿小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・6年生は、目標値、区の平均値を上回ることができた。他学年も、観点別正答率でみていくと、思考・判断・表現と主体的に学習に取り組む態度のポイントが目標値よりも下回っているものの、比較的高い傾向にある。
- ・一人一人が予想を行い、実験計画を立て、結果から考察する授業を、校内研究等で行っていったため、思考力の向上に繋がっていったと考えられる。

#### (2) 課題

- ・観点別正答率を見ていくと、どの学年も知識・技能のポイントが他の観点よりも低くなっている。そのため、観察・実験の後、ICT等を活用し、知識・技能の定着を図っていく必要がある。
- ・本校は、理科実験や観察が比較的好きな児童が多いものの、生活経験に基づいた思考が不足していたり、その主体性が知識・技能の定着に繋がっていなかったりする。そのため、目的意識をもって考えさせたり、それに必要な知識・技能を定着させたりしなければならない。また、引き続き、ICTを活用した効果的な学習を進めると同時に、学習のポイントを明確に示したり、本当に理解できているのか振り返りをしたりしながら授業を展開していくことが求められる。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値との比較▼</li> <li>・区平均との比較ほぼ同じ</li> </ul>	/	/
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値との比較：▼</li> <li>・区平均との比較（達成率）ほぼ同じ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値との比較：△</li> <li>・区平均との比較（達成率）△（第4学年時）</li> </ul>	/
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値との比較：△</li> <li>・区平均との比較（達成率）△</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値との比較：▼</li> <li>・区平均との比較（達成率）▼（第5学年時）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標値との比較：△</li> <li>・区平均との比較（達成率）ほぼ同じ（第4学年時）</li> </ul>

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を下回っている。</li> <li>・自然現象にまつわる用語を正確に抑えられていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を下回っている。</li> <li>・実験、観察の結果からどのようなことが考えられるかができていない。理科における「見方・考え方」をはたらかせられるようにする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を下回っている。</li> <li>・理科への関心をより高めるために、児童が主体的に学習に取り組めるようにしていくことが必要である。</li> </ul>

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生は、目標値を下回っているが、6年生はほぼ同じ。</li> <li>・実験器具の扱いについて、正答率が低い。</li> <li>・その他の単元については、学年によって差がある。</li> <li>・領域間わず、知識・技能の定着を確実なものとするのが求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生は、目標値を下回っているが、6年生は上回っている。</li> <li>・6年生に焦点を当てると、特に植物、ふりこの単元の正答率が低い傾向である。</li> <li>・比較すると「推測する力」に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生は、目標値を下回っているが、6年生は上回っている。</li> <li>・領域、単元においては、差がある。</li> <li>・各学年での学習内容の積み重ねや自然現象への関心を高めていくことが必要である。</li> </ul>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一度学習した単元においても、日常での振り返りやICTの活用をすることで知識・技能を確実なものにしていく。</li> <li>・実体験の機会を多く設け、体験していく中で知識・技能を増やしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活経験の振り返りや、観察、実験の後の考察の時間を多めにとり、比較を駆使してじっくりと考えさせていく。</li> <li>・予想や考察にて自分が考えたことを言語化して相手に伝えるように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験を受け身の姿勢で取り組むのではなく、能動的に取り組めるように発問をしていく。</li> <li>・観察、実験の計画の段階から積極的に発言をさせる。</li> </ul>

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の特色を生かしながら、観察を行っていく。</li> <li>・観察や、実験において、実験器具の正しい使い方をおさえていく必要がある。</li> <li>・観察、実験したことを基にしながらデータや映像を提示し、知識・技能の補充を行っていく。</li> <li>・実験方法や手順など目的意識をもって取り組めるよう指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活経験に基づいたり、複数の自然物の事象・現象を対応、比較させたり等、様々な視点から根拠のある予想を立てさせ実験・観察に臨ませる。</li> <li>・実験・観察結果から考察させる過程を大切に、指導を行う。実験結果から繋げさせたり、比較させたりするなど、考察したことを分かりやすくまとめていく力を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然事象への関心を高めるために、ICT だけの取り組みだけでなく、長期的に天気観察を行っていく。</li> <li>・自分で実験計画を立てられるように、必要な器具や実験方法を考える時間を十分に確保させる。</li> </ul>